

(申6:4-9)

4 聞^きけ、イスラエルよ。主^{しゅ}は私^{わたし}たちの神^{かみ}。主^{しゅ}は唯一^{ゆいいつ}である。

5 あなたは心^{こころ}を^つ尽くし、いのちを^つ尽くし、力^{ちから}を^つ尽くして、あなた^{かみ}の神^{しゅ}、主^{あい}を愛^{あい}しなさい。

6 私^{わたし}が今日^{きょう}あなたに命^{めい}じるこれらのことばを心^{こころ}にとどめなさい。

7 これをあなたの子どもたちによく教^{おし}え込^こみなさい。あなたが家^{いえ}で座^{すわ}っているときも道^{みち}を歩^{ある}くときも、寝^ねるときも起^おきるときも、これを彼^{かれ}らに語^{かた}りなさい。

8 これをしるしとして自^じ分^{ぶん}の手^てに結^{むす}び付^つけ、記^き章^{しょう}として額^{がく}の上^{うえ}に置^おきなさい。

9 これをあなた^{いえ}の家^{とぐち}の戸^{はしら}口^{もん}の柱^かと門^{しる}に書^かき記^{しる}しなさい。

エジプトから出^でてきたイスラエルは、カナンを目前^{もくぜん}にしたカデシュ・バルネアで、偵^{てい}察^{さつ}の報^{ほう}告^{こくじけん}事件^{じけん}によって40年間^{ねんかん}荒野^{あらの}で暮^くらすことになります。その事件^{じけん}の内容^{ないよう}は何^{なに}だったでしょうか？神^{かみさま}様の契^{けい}約^{やく}を絶^{ぜつ}対^{たい}的に信^{しん}頼^{らい}せず、自^じ分^{ぶん}たちの判^{はん}断^{だん}によって絶^{ぜつ}対^{たい}にカナンに入^{はい}ることができな^ざいと挫^{さつ}折^{せつ}して、神^{かみさま}様^を恨^{うら}みます。それは彼^{かれ}らを導^{みちび}いてくださる神^{かみさま}様^を対^{たい}する不^ふ信^{しん}です。あ^いい^かわ^らず神^{かみさま}様^をのみことばより自^じ分^{ぶん}の判^{はん}断^{だん}に頼^{たよ}って善^{ぜん}悪^{あく}判^{はん}断^{だん}の主^{しゅ}体^{たい}者^{しや}として生^いきようとする善^{ぜん}悪^{あく}の实^みを取^とって食^たべたアダムであること^が暴^{ばく}露^ろされる事件^{じけん}なのです。神^{かみさま}様^はそのよう^{かれ}な彼^{かれ}らを荒^{あら}野^のに、すなわちエデ^えンから追^おい出^だして、彼^{かれ}らがど^{むりよく}れ^{つみびと}ほど無^{たいけん}力^{けん}な罪^ん人^{ぼん}であるか^とを体^ち験^{ちや}させるのです。アダムに根^{こん}本^{ぽん}である土^と地^ちを耕^{たがや}して生^いきるよ^うにされ^{あらの}た^{じんせい}ように、荒^い野^しの人生^{つち}を生^すきるイスラエルに、ち^しり、死^しんだ土^{つち}に過^すぎないことを悟^{さと}らせるの^{です}。申^{しん}命^{めい}記^き8章^{しょう}に、神^{かみ}はイスラエルを荒^{あら}野^のの40年^{ねん}を歩^{あゆ}ませた理^り由^{ゆう}をおしやいます。

2 あなた^{かみ}の神^{しゅ}、主^{しゅ}がこ^{よんじゅうねん}の四^{あいだ}十^{あらの}年^{あゆ}の間^{みち}、荒^{おほ}野^をであな^{あゆ}たを歩^{あゆ}ませられたすべ^{みち}の道^{おほ}を覚^{おぼ}えていなければなら^{ない}。それは、あな^{くる}たを苦^{くる}しめて、あな^{ため}たを試^{ため}し、あな^{めいれい}たがそ^{まも}の命^{めい}令^{れい}を守^{まも}るかどう^かか、あな^{こころ}たの心^しのう^{こころ}ちにあるもの^しを知^しるためであ^{った}った。

3 それで主^{しゅ}はあな^{くる}たを苦^{くる}しめ、飢^うえさせて、あな^したも知^しらず、あな^ふたの父^ふ祖^そたちも知^しらなかつたマナ

を食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きるということを、あなたに分からせるためであった。

このみことばは、自分たちは神様の命令をすべて守りながら生きることができると誇っていたイスラエルに、「あなたたちが本当に私の命令をすべて守って生きることができると思うのか？そのように生きてみなさい」と神様が責められる内容です。実際、イスラエルの荒野の人生はどうでしたか？神様のみことばと命令を一度も聞いたことはありません。結局、出エジプトしたイスラエル60万人が荒野ですべて死にました。「善悪の知識の木から食べるとき、必ず死ぬ」というみことばの成就を見せたのです。

しかし、神様は彼らの上に恵みを覆い、ヨシュア(イエス)を前に立て、荒野で生まれた出エジプト二世を約束の地に入らせてくださるのです。荒野のレムナント運動は、神様のみことばを追って従う者として生きるのが本当の祝福であり、上からくださったマナ、すなわちいのちのパンであるイエス・キリストを通してのみ得られる救いを説明してくださる「学習の場」だったのです。それをステパノは「荒野の集会」と表現しました。このような荒野の集会、荒野のレムナント運動は、今日を生きるすべての神の民が経なければならない過程です。私の力で神様のみことばを守りながら生きるのではなく、「わたしは心の貧しい者です。神様の口から出てくるみことば、イエス・キリストの恵みだけで生きることができます」と告白しながら生きるのです。主は唯一であり、心といのちと力を尽くして神、主を愛することをまず心に刻み、後代に言葉だけではなく体で、生き方で見せて教えなければならないでしょう。